

# 東京教区時報

第788号付録 特別号

2001年7月22日発行

日本聖公会東京教区  
港区芝公園3-6-18

編集人 伊藤裕元

WEB:<http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL:[comm.tko@nskk.org](mailto:comm.tko@nskk.org)

Phone:03-3433-0987, Fax:03-3433-8678 (Diocese Office)

## 竹田主教退職 記念特集号

### 任期を終えて

### 感謝の言葉



主教 三ハネ 竹田 眞

(第七代教区主教)

足かけ一三年間の主教の勤めを曲がりなりにも終了するに当たって、教区の皆さんの祈りと支えと忍耐を心から感謝いたします。

主教就任が一九八八年顕現日(一月六日)でした。その年の夏には一〇年毎のランベス会議の年だったので、西も東もわからない新任主教 ベビービショップとして参加しました。留学時代の同級生で何人が主教に

なったのがいて、再会する事が出来ました。思い出話をしているうち、私が礼拝学のゼミでガブリエル・ヒーバートの『典礼と社会』に触れながら日本の礼拝と宣教の問題について発表したのをおぼえていてくれた同級生がいました。

このランベス会議で、二〇世紀の最後の二〇年を『福音伝道一〇年』とすることが決められました。主教として、「伝道」と

言うことにあまり積極的ではない日本聖公会で、どのようにこのテーマを展開するか戸惑いました。東京教区での宣教課題に靈感を与えてくれたのが、もう古典になっていますが、このヒーバートの名著でした。

今世紀後半から日本聖公会だけではなく、世界中の聖公会で祈禱書の改正が試みられてきました。その改正は、祈禱書そのものの内容や言葉づかい、あるいは礼拝の順序の改正が大部分でした。礼拝と社会との関わりというビジョンに立つ典礼や祈禱書の改革の試みはほとんどなかったようです。

東京教区の福音伝道計画を検討するにあたって、『福音の社会化』という意味での福音伝道を考えました。その社会化の手がかりとして、東京における『もっとも小さい者たち』と出会い、奉仕するプロジェクトを試みることを思い当たりました。このプロジェクトは、神の国に最も近

くにある者としての『もっとも小さい者たち』を、社会的弱者として奉仕することではなく、イエスを通して啓示された神の国に私たちをも導いてくれる者として仕える事です。その目標は、『この最も小さい者にしたことは、私にしたこと...』と語るイエスへの献

身によって、神の愛の支配する社会(神の国)のビジョンを教区が共有することです。従って、人間的な善意や同情ではなく、私たちが捧げる感謝と賛美の礼拝こそこの活動を推進する動機にならなければならぬのです。私たちが捧げる礼拝は、私たちを『もっ

とも小さい者』への献身に向けられていなければならぬと思います。従って、このプロジェクトがまず第一に礼拝する共同体になることを目指すこととなります。

ム・ノヴェナ』はこのビジョンを共に分かち合ったと言う意味で私にとってことさらに有意義なものでした。これを企画し、またこれに参加した東京教区の兄弟姉妹への感謝と共に、忘れがたいイベントでした。  
ドミネ グラティアス

## お働きに 感謝

東京教区第七代主教ヨハネ竹田眞師父は、去る3月末をもって定年退職された。6月15日に開かれた教区主催「竹田主教を送る感謝会」には元気な顔を見せられ、参席した人たちに最後の挨拶をされた。

在任一三年。その間、二年間は日本聖公会首座主教も兼任されるなど、管区・教区および世界のキリスト教界にあって社会・宣教が多様化し激動する中で、牧会指導者、オピニオンリーダーとして重責を果たして来られ

た。師父の働きやリーダーシップについてすべて収載することはできないが、主要な活動記録を教区の宣教体制のもとで職務上、師父と深くかわりを持った二司祭、二信徒に、師父への感謝を添えて綴っていただいた。この記録が後半に収録されている「略年表」とともに、師父の働きが一端を振り返り、今後の教区宣教を考察していく際によすがとなるよう願っている。

「広報委員会」

## 福音伝道十年

### 教区機構改革への取り組み

京教区の聖職・信徒をご教導いただきまして有り難うございました。

さて、竹田主教様の下で私

一三年の長きにわたり、東

が関わらせていただいた作業の一つに教区機構改革がござ

います。この機構改革の発端は一九八八年のランベス会議における決議「福音伝道の一〇年」にありました。二一世紀を迎えるに当たり、信仰による救いの宣言と困難な状態に

おかれた人々の救いと社会変革を目指し、世界の聖公会でこの課題に取り組むことが求められたのでした。  
記録を見ながら一九九〇年当時を思い起こしてみます



と、主教様が教区会開会演説や宣教方策会議(常置委員と常設委員長の合同会議)で、福音伝道の「一〇年」の取り組みについて度々奨励をなさっておられますが、教区内の取り組みはなかなか始まりませんでした。それは竹田主教就任直後の、「しんせい」キャンペーンの熱が冷めかかって、なかなか成果が見えない現状に教区が一体となって運動を展開

することの難しさを皆が感じていたためでありました。運動を展開するためには教区内の活動が教会に連なる信徒によく見える状況、聖職方が主教を中心一致協力する体制を作ることが先決ではないかという意見が大勢となり、「福音伝道の「一〇年」の目標設定に先駆けて機構改革に取り組むことになったのでした。

信徒が教区内で展開されている様々な宣教活動を知り参加できる体制を作るには、それを教区レベルで掌握して各教会へ紹介する機能を教区に備えることが必要です。また、教役者がそれに関心を持ち理解をして信徒の参加を勧めていただかなくては活動が広がりません。

これらを踏まえ

て、機構改革では(1)委員会活動のプロジェクト化、(2)グループ内教会の連携強化と教会グループ牧師協議会の設置、(3)新宣教委員会と専任の宣教主事の設置、が主たる柱となりました。

今にして思えば、ランベス会議の宿題を負っておられた主教様にはなかなか具体化できない教区の動きにさぞやきもきなされたことと推察いたしますが、じつと耳を傾け折に触れて適切なご指示をいただいたことに感謝しております。

山田 益 男  
(総会代議員)

### 女性司祭按手に 向けて

いつ頃のことだったか、時期は憶えていないのですが、



今から七、八年前だったと思います。

竹田主教さんが昼近くに教区事務所に出勤されました。普段は、朝早くから主教室におられるのですが、その日は、税務署へ確定申告を済ませてのご出勤でした。

いつもは事務所に顔を出されると、挨拶程度で、余計なこととはおっしゃらず、郵便物の確認をして、お部屋に行かれることが多いのです。ところ

## 竹田教区主教 就任から退任まで

「略年表」



一九八七年

9月15日 第71(臨時)教区会  
での教区主教選挙で、竹田眞  
司祭当時教区常置委員長、  
聖公会神学院校長。57歳)  
が投票三回目で当選。その後  
被選主教に。

12月 月末をもって山田襄教  
区主教が定年退職

一九八八年

1月6日(顕現日) カトリック



ク東京カテドラル聖マリア

大聖堂で行われた主教就任  
式で主教に、また第七代東京  
教区主教に就任・着座。司式  
者は木川田首座主教、説教者  
李天煥師父前大韓聖公会ソ  
ウル教区主教)。日本聖公会  
初の改正祈禱書(口語)によ  
る主教按手・着座式でもあつ  
た。

3月21日 竹田主教、初の議

長となる教区会(第72定  
期)。主教は会議の上に立つ  
て支配する者ではないと、  
また、一年間は教区を理解す  
るための準備に」と挨拶。

5月 先年から審議、制作を  
続けていた、東京教区の宣教  
体制の確立と各教会前進の  
ために」の副題をもつ小冊子

がその日は、チョット違った  
様子です。少し、もじもじして  
言つか言つまいか、迷ったあ  
と、「税務署から出て帰ろうと  
したら、年配の女性から「お茶  
しない」と声をかけられて  
ね」と。

事務所の職員は、一斉に仕  
事の手を止めて、興味津々。

「いくつぐらいの女性でし  
たか」、「どんな感じのひと  
ですか」、「身だしなみは」、「それ  
で、どうなさったのですか」と  
矢継ぎ早に質問をぶつけまし  
た。

『「これから仕事があります  
から」と言つて断つた」と、  
ちよっぴり恥ずかしそう。

「主教さん、余程、お金持ち  
に見られたんですよ」とか、  
「折角の機会だから、お茶、な  
さったら良かったのに」な  
ど、野次馬の面白半分の冷や  
かしの声と笑いに包まれたの  
でした。主教さんの戸惑いと  
真面目な応対振りが、目に見

えるようでした。

竹田主教さんに、わたしが  
いつも感心し、尊敬している  
ことの一つは、どんなことに  
対しても真面目に取り組み、  
責任を果たそうとする姿勢で  
す。このエピソードもその一  
つ(?)でしょうか。

教区主教として、監督下に  
ある教役者がしでかしたいく  
つもの失敗を、叱責して責任  
を取らせるのではなくて、「ご  
自分の責任として受け止めて  
来られたことには頭が下がり  
ます。

また、時代が要請する課題  
にも、リーダーシップを發揮  
して取り組んで来られたこと  
は、ご承知の通りです。

女性の司祭按手の方向性  
を、いち早く示したのも、その  
一つです。聖公会神学院とい  
う場所で、バーバラ・ハリス主  
教と共同司式で聖餐式を捧げ  
られたのは、日本聖公会の歴  
史に残る出来事です。

『しんせい』が発刊された。

7月～8月 カンタベリー大主教招集の全聖公会教区主教会議「ランベス会議」(十年おきに開かれ第二一回目)

に出席。担当分科会は「エキメニスム」で、他教派代表団も陪席するなか変動・多様化する課題と取り組んだ。

9月23日 教区フェステバル(立教女学院)。主教は「東アジアに視点を向け呼びかけ、テーマは『時が来た さあ行こう』と主は言われた。

11月 米国聖公会メリーランド(MD)教区の交流プログラムとして信徒代表二人が訪日。

一九八九年

1月15日 教区新年礼拝で説教。

3月21日 教区会(第73定期)では「いと小さき者」に言及して開会演説「アパル

トヘイトに反対しツツ大主教に連帯のメッセージを送る」議案が採択され、書簡を託す。

4月 フィリピン独立教会ルセナ教区主教の招きでルバング島を訪問。また女性宣教師招聘について協議。

7月・8月 MD教区へ中高生および大学生らの二つの訪問団を送る。

9月 管区・日本聖公会センター建設に協力。聖ハルナバル教会敷地内。

9月24日 教区フェスティバルで信徒の公餐奉仕を認可。こども聖歌隊も登場。

10月 MD教区を訪問。ロンゲスト補佐主教按手式参列。

フィリピンからナンシー・サブク氏が女性宣教師として派遣されることが決定。MRI委員会・滞日フィリピン人宣教プロジェクトリーダーとして勤務予定。

教区フェステバルで、メリーランド教区から招いた女性の司祭たちが、フィリピンのドミニコ会の神父さんたちと共に聖餐式に加わったことも印象的でした。

しかし、法規の改正がなされるまでは、女性の司祭按手を強行しようとはされなかつたことも、教区主教としての配慮と責任を深く考慮してのことであつたと思います。

竹田主教さんのお働

きを祝福して下さった神さまに、感謝致します。

司祭山 口千寿  
(前教務主事)

### 教区宣教方針の策定と実践

一九九四年3月も終わりに近いある日、竹

田主教から突然お電話をいただいた。宣教主事というお話である。一瞬呆然とした。つい先ごろの教区会で承認された教区機構改革で新設されたばかりのポストである。教区主教のもと、これも新設の宣教委員会の事務局長として、宣教の企画、立案、調整、推進等にあたるのが任務とされていた。私は聖職のどなたかが任命されるものとはかり思っ





5月 MD教区会に出

席。3月にはMD教区から代表団が来

京、また4月にMR

I委員会内に協働小

委員会を発足するな

ど、次第に両教区・教

会間交流が深まりを

見せる。

6月 小笠原聖ジョー

ジ教会を訪問。

8月 東京・MD教区

ユースカンファレンスを清

里・清泉寮で開催。

9月24日、香蘭女学校で教区

フェスティバル、福音伝道の

十年に向けて」を開催。

大韓聖公会宣教百年礼拝一

万人参加)に参列。東京から

は約百人が参加。

10月 MRIフィリピン委員

会では「タガログ語教室」を

開始。

11月 MD教区から訪問団、

女性聖職五人を含む二十八

人が来京。懇談分科会では

一九九〇年

3月21日 教区会開催(第74

定期)。社会・宣教両委員会

提案の「人権委員会」設置が

採択された(人権問題の啓

発、差別事象との取組みなど

を目的)。また「東京教区規

則」に「収益事業」項目を加

入する一部変更を可決。

4月 フィリピン・ルバング

島の聖ヴィンセント祭に参

加、独立教会ルセナ教区主教

同伴)。

ていた。

竹田主教は候補者の条件を

三つ挙げられた。第一は信徒

であること、第二は教区の状

況を理解していること、そし

て最後に今回の機構改革に携

わってきたこと。私は散々

迷ったが、主教の要請を遂に

お断りすることができなかった。

以来七年にわたって竹田主

教のもとで宣教主事の仕事を

担当させていただいた。

思い返すと、竹田主教の働

きは、着座された一九八八年

のランベス会議での決議「福

音伝道一〇年」を軸として展

開された。その手始めが教区

全体を宣教共同体として編成

しなす機構改革で、主教が

最も重視したのが各個教会と

教区組織との意思疎通の円滑

化であった。教会グループ協

議会の設置、各グループ代表

を加えた宣教委員会の構成、

拡大宣教委員会の開催などが

結果としてその実現に寄与し

たと思う。

一九九七年に発表された

「東京教区宣教方針」は二一世

紀に向かう東京教区の宣教の

姿勢を宣言したものである

が、竹田主教の公式な場での

発言がその基礎となってい

る。教区の宣教活動を進める

上での指針として用いられ、

特にプロジェクトチームの活

動の原動力であった。

なお、一時期には二チー

ムを数え、様々な課題に取り

組んできたプロジェクトチー

ムも、現在四チームとなり今

後の方向付けが検討されてい

る。

竹田主教によって指導され

推進された事柄をこの紙数で

述べることは不可能に近い。女

性司祭の実現、メリーランド

教区・大韓聖公会との交流、祈

りと交わりの教区フェスティ

バル、平和と和解を主題に礼

拝に明け暮れたミレニアム・

「福音伝道の十年」を共通課題に。

一九九一年

1月 中東湾岸戦争開始にと  
もない難民救援活動を含め  
た代祷、祈祷会、紙上(『時  
報』)大キャンペーンを実  
施。

2月11日 組織成立記念礼拝  
で説教、「福音宣教十年の開  
始に当って」を基調とする  
宣教課題を指摘。

3月21日、第75(定期)教区  
会。主教は「福音十年」の第  
一年目の原則方針で、社会に  
おける神の愛・正義・平和の  
実現への奉仕」を強調。

9月 中東キリスト教協議会  
議長S・カフィティ主教(エ  
ルサレム・中東管区首席主  
教)が来京。

9月23日 教区フェスティバ  
ル。呼び掛けテーマ『立て、  
さあ行こう』と主は言われ  
た』を掲示し、シンボルマー

クを制定した。

10月 ソウルでの日韓合同主  
教会のため訪韓。

聖公会神学院八十周年記念  
礼拝。

11月 常置・常設委員会会議  
を開き(日野ラ・サール研  
究所)教区組織改編の継続審  
議を確認し合った。

一九九二年

3月21日 第76(定期)教区  
会。教区機構改革を検討する  
「宣教方策会議」設置案が承  
認され、次回教区会に改革案  
を提出することになった。ま  
た常置委員選挙で東京教区



ノヴェナなど。われわれ  
はこれらを思い出とするだけ  
でなくその精神を大切に継承  
していききたいものと考えてい  
る。

岡野 峻  
(教区宣教主事)

### 教界を護りつつ 宣教をリード

教区事務所のスタッフとし  
て、前任の山口千寿司祭がメ  
リーランド教区へ行かれた一  
年間で、また再び三年ほど前  
から勤務させていただき、親  
しくご指導をいただきまし  
た。少しはお役に立つように  
と願いつつ、ご迷惑をおかけ  
するばかりだったようでも申し  
訳ない思いがしております。

ことに竹田眞主教様は、昨  
年の春までの二年間は、日本  
聖公会の首席主教という重責

を担われ、重ねて日本キリス  
ト教連合会の委員長として日  
本宗教連盟の理事職、また在  
任中を通して関係学校や施設  
の運営に大きな貢献をなされ  
ています。

とてもその一つ一つをここ  
に挙げることはできません。  
しかしそのお働きの期間は、  
「業務全般が順風満帆、安心し  
てその任に邁進することがで  
きる」という状況の内にはな  
かったように思います。竹田  
主教のお働きのために神様が  
備えられた時と場には…運悪  
くと言うべきか、はたまた夕  
イミング良くというべきか  
日本聖公会の内外を問わずど  
の集まりにも、「滅多にこんな  
ことは話題にならない」とい  
う事柄がしばしばその議題と  
して用意されていたように思  
います。

例えば、文部省の宗教法  
人審議会の委員在任中には「宗  
教法人法改定」が話題とな

初の女性信徒代議員が選出された。

8月 ユース・カンファレンス(清里)と全国青年大会伊豆)の二大会。

9月23日 教区フェスティバル、立教女学院。

11月 フィリピン聖公会中央教区、聖ルカミッション(ハルセン)病治療者の社会復帰支援施設)起工式へ参加。

一九九三年

この年より『教区時報』が週刊化。

巻頭頁のショートメッセージを翌年1月までの長期間、

1月3日 教区新年礼拝(聖バルナバ教会で)。

3月20日 教区会(第77定期)。信徒代議員七五人中、

女性が一人となり二〇%を越えた。

末日、津田昌男司祭が定年退職。

3月25日 ナザレ修女会、三鷹市牟礼の移転地で上棟式。

6月 皇太子の結婚をめぐる「奉祝」ムードに対し身分差別、宗教行事などの面で警告。

米国バーモンド教区で米国聖公会初の女性主教が選出された。

教区会館、三〇年ぶりに改装工事。各教会グループで、教区機構改革について協議会が活発化。

7月 中高生中心のMD教区が訪問団。

9月23日 教区フェスティバル、香蘭女学校で。

10月9日 前教区主教山田襄教父逝去。12日に教区葬(司式)竹田主教)。

10月 女性教役者のための産休制度が実施された。

小笠原聖ジョージ教会へ公式訪問。

12月 台湾聖公会へ親善訪問。

り、ついには審議会の進め方について、宗教団体関係の審議委員らと共に強い抗議を表明せざるを得ないとご判断をされたこともありました。日宗連では「情報公開法」や「靖国神社国営化」の問題、日キ連では最近の「献金袋印紙税課税問題」等々、教会の中もまたそれを取り巻く状況もが、従来の枠組みを超えて大きくかつ静かに変わろうとしている困難な時期に、預言者的な働き手の一人として発言し、交渉・協議の席に着き、宣教を推め教界を護る働きに積極的に関わりの、それをリードされました。その姿勢は決して感情的に熱してというものではなく、どちらかといえは冷静に過ぎるので、はと傍には思われるくらいでしたが、明確かつ的確な判断を伴うものであったと感じています。



こうした変化の流れはまだ続いています。そして竹田主教様を示された見識と態度のあり方を考え、宣教と奉仕の働きをなしてゆく上で、大切な示唆を含んだものであると確信しています。感謝して、御礼を申し上げます。

司祭 下条 裕章  
(教区総主事)





一九九四年

1月2日 教区新年礼拝、浅草聖ヨハネ教会で。

3月21日 教区会(第78定期)。継続審議となっていた「教区機構改革」議案が可決。実務機関となる宣教委のの新設、専任宣教主事の選任、新宣教体制づくりなどの課題取組みへ移行。

4月 選任宣教主事に岡野峻

氏が就任。

5月 日本聖公会総会(第46定期)で八代崇主教(北関東)が首座主教に着座。「女性の司祭按手」議案は継続審議へ。

6月 聖公会・ローマカトリック教会と合同祈禱会(第二回・麹町教会)。

教区会館の外装改修工事終了。

7月 機構改革に伴う宣教委員による第一回委員会開催。

教会グループ推薦委員六人、主教指名委員六人、職務上の委員二人の計一四人(内女性四人)。教会グループ協議会の活動も次第に活発化。MRIメリーランド小委員会から小冊子「メリーランドとの協働 驚きと学びのうちに」…協働を総括した報告書を刊行。

9月23日 教区フェスティバル、立教女学院で。

11月 常設委員会のもとで活

動していた諸活動がプロ

ジェクトチーム化されて、各チームリーダーと宣教委員会との合同会議を開催。

12月 宣教委員会制作(協力・広報委員会)による小冊子『奉仕職を考えるシリーズ・I』が発行された。

一九九五年

1月6日 主教、太平洋神学校で講義を行うため出張(2月3日)

1月17日 阪神・淡路大震災発生。救援活動・募金活動など教区・教会レベルで開始される。

3月21日 教区会(第79定期)。「福音伝道十年」の中間年に当り、機構改革後では初の教区会で、重要議案が多くあった。「阪神大震災二億円奉献」決議もその一つで、同地の復興計画を支援する教区プロジェクトも設置へと始動した。

遠山隆夫司祭、定年退職

4月 『教区時報』編集作業室が「コンピュータ」機材の導入を得て、管区事務所から教区会館二階へ移転。

5月 MD教区主教選挙でR・W・イーロフ司祭が選出された。(10月、竹田主教らが就任式に参列)

8月 10月 戦後五十年を記念して「和解と平和」キャンペーン。

韓国ソウル教区で次期教区主教にチョン・ Cholボム司祭を選出した。

9月23日 教区フェスティバル、立教女学院で。

11月 教区宣教方針の成文化へ向けて話し合う拡大宣教会議を開催。  
鈴木勉司祭逝去(17日・63歳)。

一九九六年

1月7日 教区新年礼拝、聖パウロ教会で。

宣教委・常置委・プロジェクト合同会議(14・15日、日野ラ・サール研究所で)。

2月 拡大宣教委員会で「宣教方針」成案へ向けた意見交換。

3月 教区会(第80定期)で「教区宣教方針」が採択され、小冊子、はがき判、特別号などで配布された。

大野俊朗・島田忠雄・西村哲郎・堀江清(休職)の四司祭が定年退職。

8月 四年振りに全国青年大会が被災地神戸・六甲で。教財務サービス委員会による「パソコン利用者の集い」が開かれた。

9月 MD教区から女性の三聖職・一信徒を迎え教区フェスティバル(23日・『ひろがれ、わたしたち』)ではゲスト参加。また来訪されたドミニコ会管区長、修道院長も臨席。

11月24日 第81(臨時)教区会

〓 神田。高齢者施設 建築申請を東京都へ提出する案 聖救主教会・福祉会(関連)を可決。



会。主教開会演説では「一教会一牧師の司牧体制に對する再検討、対策の必要性」を強調。

5月16日・19日「ソウル・東京21世紀宣教大会」が韓国京畿道楊平で開催され、主教のほか司祭・信徒二七人が参加。

6月 MD教区からイーロフ教区主教らが来京。今後の協働関係を協議。

8月 下町教会グループで初めての合同礼拝を施行。

9月23日 教区フェスティバル(立教女学院)で「持ち寄りとかち合いの食卓」と「教区劇団?」が初登場。旗揚げ公演?では教区主教も熱演。呼び掛けテーマ「みんな家族」分かちあおうイエスさまの食卓から」

11月 拡大委員会を開き、教区の司牧体制につき意見交換、宣教の協働、パートナーシップの構築、その取組方」



などを話し合つ。

一九九八年

1月24日 教区会開催(第83臨時)。深川合築計画(高齢者福祉施設建築計画)案が採択された。

3月21日 第84(定期)教区会。

今井丞治・高島靖・澤邦介司祭が定年退職。

4月 東京教区ホームページが開設。公開された。

5月 日本聖公会第51(定

一九九七年  
1月11日 教区新年礼拝、主教座聖堂で。

3月20日 第81(定期)教区

期)総会が聖アンデレ教会

ホールで開かれ、竹田主教が第一五代首座主教に選出されて着座。また、女性の司祭按手」案件が可決された。

6月 拡大宣教委員会で総会報告会。

7月・8月 ランバス会議へ竹田主教出席、「一つになる呼びかけ」が中心テーマ。8

月6日の聖餐式は日本主教会が司式した「広島デー」。

9月23日 教区フェスティバル(香蘭女学校)、『与かるう！イエスのいのち』老いも若きも。午後のイベントでは音楽グループ「エルピス」をバックに竹田主教が「十字架の愛」を熱唱する一こま也。

10月 MD教区へ聖職・信徒の訪問団出発、学びと交流の旅。

新設管区となった香港聖公会の記念式典へ竹田主教臨席。

11月21日 二十年ぶりとなる

「秋の教区会」(第85臨時・教区会)。次年度の活動計画や財政予算を中心に審議

九州教区教区会で行われた主教選挙で東京教区五十嵐正司司祭が選出された。

11月27日 山野繁子・笹森田鶴両執事を司祭に叙任する旨の按手式が公示された。

12月12日、中部教区で日本聖公会初の女性司祭・渋川良子師が誕生。竹田主教が説教者に。

一九九九年

1月6日(顕現日) 公示通り東京教区初の女性司祭二師が誕生。司式者竹田主教、説教者塚田理司祭をはじめ

MD教区イロフ主教ソウル教区関係者、五十嵐被選主教：当日、五百人あまりの人が臨証、祝福した。

2月、「二〇〇〇年懇談会」が宣教委員会主催で開かれ、二

一世紀への宣教課題を整理

するキャンペーンを開始。3月22日 第86(定期)教区会。

4月 高齢者施設「深川愛の園」が竣工式を終えて開園

デヨン釜山教区主教。

11月20日 第87(臨時)教区会開催。二千年記念、超教派行事「東京大聖書展」共働プロジェクトチームを新設。チームミニストリー(チーム牧会制)の検討、教会や教会グループからのプロジェクト提案、教区宣教体制の再構築などの課題が論議されるようになった。

二〇〇〇年

1月8日 キリスト降誕二千年を迎えた年頭、教区新年礼拝。竹田主教は「平和」「小さい者」「恵みを証しする者」を強調。

3月20日 第88(定期)教区会、教区費分担金算出方法の改定(二〇〇一年度から実施)が可決。また次期教区主教を選出、主教選挙をおぼえて祈る」件も決議された。

佐藤信康・塚田理・米村路三司祭が定年退職。



4月10日 聖公会神学院校長  
に關正勝司祭が就任。

5月23日 日本聖公会第52  
(定期)総会。退任される竹  
田首座主教に替り、古本純一  
郎主教(神戸)が選出され、  
25日に着座式が。

6月8日 聖公会ノカトリッ  
ク合同祈禱会(第二回)が聖  
イグナチオ教会で開かれ共  
通訳「主の祈り」が用いられ  
た。

7月15日 臨時(第89)教区会  
で次期教区主教の選挙が行  
われたが、当選者を得ること  
ができなかった。

9月23日 教区フェスティバ  
ルが立教小学校で。テーマフ  
レースはこの恵みをしっか  
りおぼえて」。

11月 キリスト降誕二〇〇〇  
「東京大聖書展」が東京オパ  
ラシティで開催された。竹田  
主教は同展実行委員会名誉  
委員として、また関連行事  
「プレセミナー」(計四回)は

聖公会の教区共働プロジェクトを窓口、それぞれ参加、担当した。

11月23日 臨時(第90)教区会  
で二回目の主教選挙が行われ、植田仁太郎司祭(アジア  
学院校長・出向)が後任主教  
に選出された。

12月9日 第91臨時教区会。  
次年度の活動方針、予算案な  
どを審議。

12月26日 新千年期へ向け  
ての九日間の礼拝ミレニア  
ム・ノヴェナ」が主教座聖堂  
その他でささげられた。

二〇〇一年

1月6日 顕現日ノヴェナ第  
九日の最終礼拝教区新年礼  
拝)で、竹田主教は植田被選  
主教を紹介。

3月20日 第92(定期)教区  
会、竹田主教は最後の議長席  
に。

3月31日 植田被選主教が第  
八代教区主教に就任立教女

学院聖マリア礼拝堂)。竹田  
主教は牧杖を授与して新主  
教を主教座に。

6月15日 竹田主教誕生日に

退任された同師父に感謝す  
る集いを開催(教区主催・聖  
アンデレホール)。

